

世界遺産登録 25 周年記念 描かれた日光の社寺

2025年2月15日 [土] ~ 4月20日 [日]

■ 開催概要

2024年度に「日光の社寺」が世界遺産登録25周年を迎えたことを記念して、当館が所蔵する水彩画作品を中心に「描かれた日光の社寺」を展示します。

日光は1885（明治18）年に上野～宇都宮間、1890（明治23）年に宇都宮～日光間で鉄道が開通して以来、避暑に訪れる外国人は更に増え、国際的な観光地として定着しました。その時代背景として、1890年代後半から1900年代には、日光を訪れる外国人観光客のお土産品として、五百城文哉、河久保正名、小杉未醒（放菴）などの画家たちによって「土産絵」と呼ばれる水彩画が制作されます。いずれも東照宮・陽明門や神橋など「日光の社寺」の代表的な景観や建造物を精緻に描き出したことから、多くの外国人から人気を得ました。

当館が開館時より収集した水彩画作品は制作から100年以上経過し、その多くは海外に一度、渡ったにもかかわらず、今もなお色鮮やかに瑞々しさを保っています。本展では水彩画が持つ繊細な筆致と色彩から今まで受け継がれてきた「日光の社寺」の美をお愉しみください。

会期：2025年2月15日 [土] ~ 4月20日 [日]

会場：小杉放菴記念日光美術館

開館時間：午前9時30分 ~ 午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：毎週月曜日（2月24日は開館し、2月25日を休館）

入館料：一般730（650）円、大学生510（460）円、高校生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体割引料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料

※第3日曜日「家庭の日」（2月16日、3月16日、4月20日）は、大学生・専門学校生以下無料

※日光市民は一般300円、大学生200円、高校生以下無料

主催：公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館／日光市／日光市教育委員会

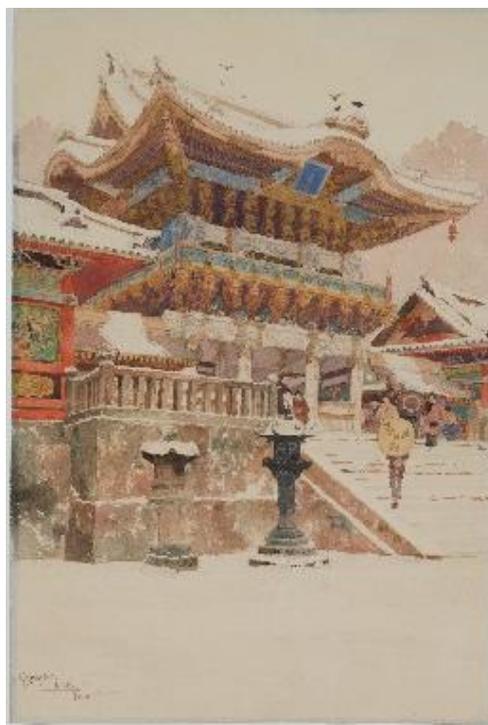
お問い合わせ：小杉放菴記念日光美術館

Tel:0288-50-1200 Fax:0288-50-1201

〒321-1431 日光市山内 2388-3

担当：学芸課 田邊健

tanabe-ken (a) khmoan. jp ※(a)を@に変更してください。

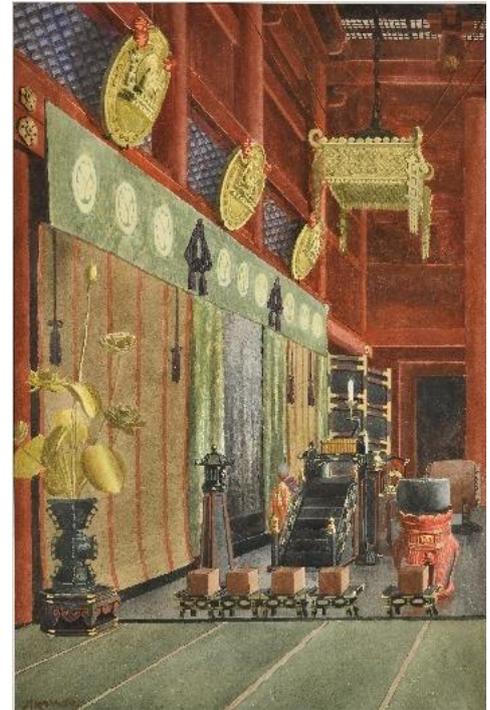


国府浜国太郎（小杉放菴）《東照宮・陽明門》
1900（明治33）年

■ 本展の見どころ

1. 水彩画で巡る日光の社寺

1890年代後半から外国人観光客向けに販売された「土産絵」は、日本全国の名所、景観が描かれ人気を博しました。その中でも日光の景観、特に社寺は多く描かれており、建築装飾の緻密さや四季折々の様子を写した作品が残されています。その多くは一度、海外に渡るなど環境の変化に接してきましたが、現在も淡く瑞々しい色彩は失われてはいません。水彩画が持つ色彩から「日光の社寺」を体感していただく展示になります。



河久保正名《輪王寺・三仏堂内部》、明治後期

2. 「日光ブランド」の開発

壬生藩士出身で足尾銅山などにて鉱山技師を務めた後に、実業家として日光の産業振興に力を注いだ守田兵蔵（1844 - 1925）は、現在の田母沢御用邸近くに自宅兼美術陳列所である「鍾美館」^{しょうびかん}を開設しました。絵画や工芸品の制作や販売をし、若手の芸術家の育成も行っていました。五百城文哉や同じく社寺の水彩画を多く描いた沼辺強太郎らは専属の画家となり、小杉未醒（放菴）も作品を提供するなど、多くの水彩画が「鍾美館」から販売されました。そこから生まれた芸術作品は「日光ブランド」と称され、日光を盛り上げていきました。本展では「鍾美館」と所縁のある作品も展示いたします。

3. 謎に包まれた「無名の画家」

当館では五百城文哉、小杉未醒（放菴）らの水彩画の他に“YOKOTSUKA”や“Y. ITO”とサインをローマ字のみしか記されておらず、経歴が不明な画家による作品や、署名自体が記されていないものも所蔵しています。

画家の特定が難しい一方で、いずれの作品も精巧に描かれており、謎に包まれた「無名の画家」による作品の存在は、土産絵の魅力の一つともいえます。本展では、いずれも高い技量が発揮された当館所蔵作品の中から選りすぐりの絵画をお楽しみいただきます。

■ 主な出展作家について

^{い お き ぶ ん さい}五百城文哉（1863 - 1906）

現在の茨城県水戸市に生まれる。本名は熊吉。高橋由一、浅井忠、小山正太郎の指導を受ける。1890年、第三回内国勸業博覧会にて大作を出品し、1892年、号を文哉に改め、翌年シカゴ万国博覧会出品制作のために日光に訪れて以来、永住する。社寺建築の絢爛さを描き、また雪景色も取り入れた叙情的な作品も制作していく。日光の工芸・美術振興の目的で設立された「鍾美館」の専属の絵師として携わるなど「日光ブランド」の発展に貢献する。また、日光から離れた、富士山を描いた作品のサインにも“NIKKO”の文字を入れている。植物学者の牧野富太郎らとも親交を深めており植物の描写も得意とし、その緻密な筆致を社寺と植物画共に発揮した。

かわくほまさな 河久保正名（生没年不明）

神奈川県出身と推定される。1876年に国沢新九郎の画塾・彰技堂で学び、1885年には画塾、勸画学舎を開き、丸山晚霞らを指導した。大蔵省印刷局に勤め、同僚には石井柏亭がいた。また明治美術会に参加し、1900年パリ万国博覧会に出品している。印刷局退職後は日光に転居したと伝えられているが、その他、詳細な経歴や画業については、現在まで明らかになっていない。東照宮・陽明門など同一の社寺建築を様々な口ケーションから描き、五百城文哉と並び、「日光の社寺」の作品を多く残した画家である。

こすぎみせい ほうあん 小杉未醒（放菴）（1881 - 1964）

栃木県上都賀郡日光町（現・日光市）に生まれる。本名は国太郎。父の富三郎は二荒山神社の神官を務め、国文学者でもあり、日光町長を務めた。1896年に五百城文哉の内弟子になり、画業の初めは当時の本名、国府浜国太郎の名で制作する。1904年頃から未醒を名乗り、その後、師の紹介で小山正太郎の画塾、不同社に入門する。1913年のフランス留学の際に見た池大雅の作品に感銘を受けて日本画に傾倒していき、幅広い画風を展開する。1914年に日本美術院の同人として洋画部を牽引するが後に脱会。1922年には春陽会を設立し1924年、号を放菴に改めた。文哉の内弟子時代では建築描写や行き交う人物描写など、師ゆずりの技量で社寺の水彩画を描いていった。

会期中のイベント

■ 講演会

「聖地日光」をアートプロデュースした壬生藩士

日時：2025年3月8日（土）14:00～15:30

講師：中野 正人 氏

（壬生町立歴史民俗資料館 学芸員）

■ 当館学芸員によるギャラリー・トーク

日時：2025年2月16日（日）、3月1日（土）、
4月5日（土）各日11:00～（約1時間）

※予約不要・要入館料

※予約制（定員50名）・要入館料

同時開催企画

■ 令和6年度 日光市歴史民俗資料館移動展

世界遺産登録25周年移動展「日光の社寺」の保存と修理

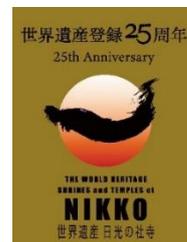
修理状況の写真や図面、彩色や漆塗などに使う道具等の展示を行います。連綿と継承されてきた歴史と伝統、卓越された技術の粋を心ゆくまでご堪能ください。

移動展に関するお問い合わせ先

日光市教育委員会事務局文化財課・日光市歴史民俗資料館

〒321-1261 日光市今市 304-1

Tel：0288-25-7333/Fax：0288-25-7334

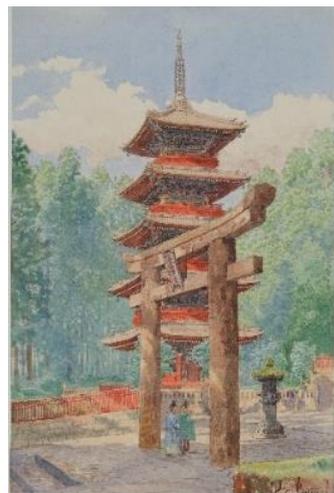


2024 年 11 月 26 日

主な出品作品



五百城文哉《東照宮・陽明門》1892-1905 年頃



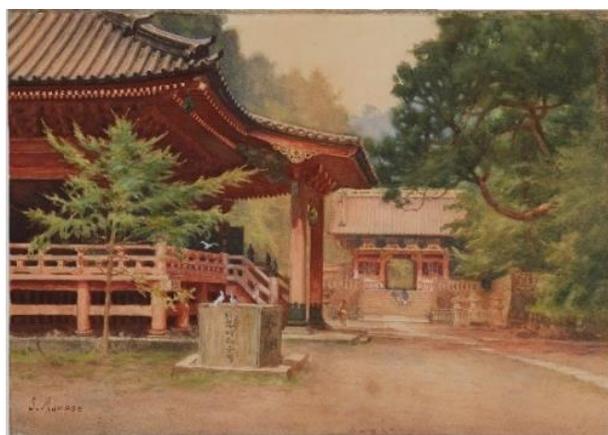
五百城文哉《東照宮・五重塔》1892-1905 年頃



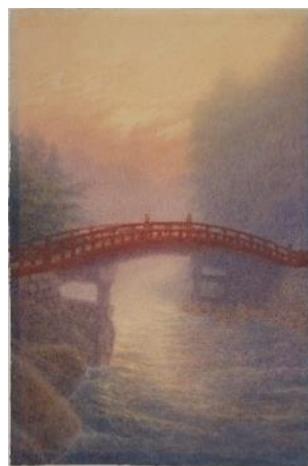
野崎華年《東照宮・御水屋》制作年不明



河久保正名《東照宮・陽明門と神輿舎》明治後期



S. NUMABE《輪王寺・法華堂》制作年不明



Y. ITO《神橋》制作年不明

世界遺産登録 25 周年記念

描かれた日光の社寺

広報用画像申込書

FAX: 0288-50-1201

E-mail: tanabe-ken (a)khmoan.jp ※(a)を@に変更してください。

小杉放菴記念日光美術館 田邊行

■ 画像ご使用に際してのお願い

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れて、FAX かメールにてお送りください。
- ・使用目的は、本展のご紹介のみに限ります。
- ・画像は、原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、文字のせは無断で行なわないよう、お願いいたします。
- ・掲載する場合は、作者名と各画像のキャプション以下を必ず記載してください。
- ・画像のご使用は1申込につき1回とし、使用後のデータは破棄してください。
- ・基本情報確認のため、展覧会担当まで一度校正紙をお送りください。
- ・掲載見本を展覧会担当までご送付いただきますよう、お願いいたします。

✓	No.	作品
	1	国府浜国太郎（小杉放菴）《東照宮・陽明門》1900年、小杉放菴記念日光美術館
	2	河久保正名《輪王寺・三仏堂内部》、明治後期、小杉放菴記念日光美術館
	3	五百城文哉《東照宮・陽明門》1892-1905年頃、小杉放菴記念日光美術館
	4	五百城文哉《東照宮・五重塔》1892-1905年頃、小杉放菴記念日光美術館
	5	野崎華年《東照宮・御水屋》制作年不明、小杉放菴記念日光美術館
	6	河久保正名《東照宮・陽明門と神輿舎》明治後期、小杉放菴記念日光美術館
	7	S. NUMABE《輪王寺・法華堂》制作年不明、小杉放菴記念日光美術館
	8	Y. ITO《神橋》制作年不明、小杉放菴記念日光美術館

貴社名： _____

掲載メディア： _____

ご担当者名： _____

Tel： _____

Fax： _____

E-mail： _____